

放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、東京大
学医科学研究所
坪倉正治
作成＝放射能対策室



Q 放射線の単位がよくわかりません。

A シーベルト (Sv)：放射線が当たった際、人体へ及ぼす影響の大きさを数値化した単位。

ベクレル (Bq)：放射線は不安定な放射性物質が崩壊する際に発生します。1秒あたりにその崩壊が起こる放射性物質の数を表す単位。

カウントパーミニット (cpm)：放射線測定器が1分間に検出した放射線の数で、表面の汚染を計測する際に使用される単位。

Q 食品中の放射性セシウムの基準値を教えてください。

A 厚生労働省で示している食品の放射性セシウムの基準値は以下のとおりです。

食品群	一般食品	乳児用食品	牛乳	飲料水
基準値	100Bq/kg	50Bq/kg	50Bq/kg	10Bq/kg

Q 水道水は、安全ですか？

A 真野ダムを水源としている地域からは、事故直後を除き、測定精度が高いゲルマニウム半導体検出器ですらセシウムが検出されたことはありません。濾過の際に、土壌に全て放射性物質が付着するためと考えられています。現在、市の水道水は十分な安全性を維持しています。

Q 放射性物質が溜まりやすいのはこういった場所なのでしょうか？

A 一般に放射性物質は、粘土に付着しやすい性質を持っています。雨水や排水が集まる場所、雨風により泥・土壌が溜まりやすい場所、湿り気があり植物が生えている場所で放射性物質が溜まっている場合があります。

Q 現在の相馬市の食品で放射能汚染度の高い食品にはどのようなものがあげられますか？

A 基準値 (100Bq/kg) を超えている食品の内訳は、大半がこしあぶらや原木しいたけ (露地) などの山菜・きのこ類です。12月末現在で2,728件測定したもののうち、基準値を超えた食品は239件で、そのうちの203件がその検査時既に出荷制限のかかっている食品でした。

具体的には以下のようなものです。キウイフルーツ、栗、くさそてつ (こごみ)、たけのこ、ふきのとう (野生)、ぜんまい、たら芽 (野生)、こしあぶら、原木しいたけ (露地)、原木なめこ (露地)、野生きのこ

Q 除染されていない土や砂利に触れて遊ぶのは大丈夫でしょうか？

A 自宅周囲が除染されていないといっても、短時間の遊びにより、被ばく量が大きく増えるわけではありません。外部被ばくにおいて、最も気を付けるべきは滞在時間の長い就寝場所の線量を低く維持すること、内部被ばくにおいては、明らかに出荷制限のかかるような汚染食品の摂取を避けることです。万が一、土が口に入ってしまったとしても、放射性物質による追加被ばくは非常に小さく、人体に影響を与えるとはまず考えられないレベルです。

Q 自宅の放射線量を知りたいが、市では放射線測定器の貸出をしていますか？

A 市では、市民の身近な空間線量率の測定に利用していただくため、簡易型放射線測定器 (メリディアン社製「プリピャチ」) を無償で貸出を行っています。積極的にご利用ください。

出典および参考資料：相馬市ホームページ、厚生労働省ホームページ